



TITLE:

かんとト軌近ノ社會主義(三)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. かんとト軌近ノ社會主義(三). 經濟論叢 1918, 7(5): 626-633

ISSUE DATE:

1918-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127455>

RIGHT:

かんじと軌近ノ社會主義 (三)

米田庄太郎

(2) じょーれ (Jean Jaurès)

社會主義ノ學者中ニテ、最トモ早ク近世社會主義ヲかんとニ結ビ付ケテ考察シ、かんとヲ以テ獨逸社會主義ノ設立者ノ一人ト認メタルハ、奇妙ニモ獨逸ノ社會主義者ニ非ラズシテ佛國ノ社會主義者じょーれデアルト思フ。彼ガ千八百九十一年ニ出版セル學位論文 *De primis Socialismi Germanici lineamentis apud Lutherum Kant, Fichte, et Hegel* ニ於テ「社會主義ノ眞實ナル源泉ハヘーゲル極左黨ノ唯物主義ニ非ラズシテ、るーてゐる、かんと、ふいひて及ビヘーゲル等ノ唯心主義デアル」ト云ヒ、又「社會主義ノ最トモ深キ奥底ニハ獨逸哲學否ナ獨逸精神其ノ物ガ活動シテ居ル」ト言明シ、而シテかんとニ就テハ、彼ノ人格自己目的ノ思想、國家觀念及ビ所有權觀念等ヲ論究シテ、彼ハ既ニ實質的ニ如何ニ近世社會主義ノ根本思想ヲ發達サセテ居ルカラ證明セント試ミテ居ルガ、其ノ結論トシテ「假令かんとハ人性全體ヲ自由ニ於テ認メ、而シテ政治的ニハ社會主義ニ反對シタトハ云ヘ、哲學的見地ニ於テハ、彼ハ彼ノ國家觀念及ビ所有權觀念ニヨリテ社會主義ト一致シテ居ル」ト斷定シテ居ル。尙ホ其ノ後彼ハ巴里學生社會主義團體ノ講演會ニ於テ爲セシ講演ニ於テ、唯物史觀ハ決シテ唯心史觀ヲ排斥スルモノデナイ事ヤ、兩者ノ總合ガ必要デ

アルコトナゾヲ論ジ、而シテまゝるくすノ唯物史觀說ハ決シテ物質的慾望ヲ充足シ、箇人の幸福ヲ得ントスル目的ニ人類ノ一切ノ行爲ヲ從屬セシムル生理的及ビ倫理的唯物主義ト同一視サル可キモノニ非ラザルヲ辯ジテ居ル。要スルニじよれノ考フル處ニテハ、唯物史觀ト唯心史觀トハ決シテ調和サレ難キ思想ノ兩極端ヲナスモノデナク、相互ニ調和サレ得ル又調和サレテバナラヌモノ、否ナ全然融合サレ得ル又融合サレネバナラヌモノデアル。

(3) **こんらーど、しゅみつと** (Conrad Schmidt)

獨逸ノ社會主義者ノ中デ、最モ早クかんと哲學ニ注目シタル一人ハこんらーど、しゅみつとデアルト思フガ、彼ハじよれノ著書ヲ知ラナカツタ様デ、全クじよれヨリ獨立ニかんと哲學ノ重要ヲ悟ツタノデアラウト察セラレル。而シテ彼ニ其ノ機會ヲ與ヘタルハくろーねんべるひノかんと傳ニシテ、彼ノかんと哲學ニ關スル思想ハ千八百九十七年「ふおるぐえーるツ」ニ載セラレタル同書ノ批評ニ於テ始メテ發表サレテ居ル。併シ右ノ批評ニ於テしゅみつとガ特ニ重要視シテ居ルノハかんとノ認識批判論ノ方面デアル。其ノ方面ニ於テハ彼ハ「かんとニ歸レ」ノ運動ヲ大ニ歡迎シ、其重要ヲ高調シテ居ル。而モ彼ハかんとノ認識批判論ヲ全ク心理學的意義ニ解シテ、其ノ先驗的意義ヲヨク理解シテ居ラナイ様デアルカラ、正當ニかんとヲ理解シテ居ツタトハ思ハレナイ。而シテかんとノ倫理學ニ就テハ、彼ハ之ヲ「純論理的關係ヲ道德ノ原理トナサントスル怪異ナル計畫」ト評シ、又「感情、慾望及ビ人生ノ目的ヨリ全ク倫理ヲ切り離サントスルモノ」デアルト評シテ居ル。隨フテ彼ハかんとノ倫理學ガ近世社會主義ノ倫理的論證トシテ如何ニ重大ナル

意義ヲ有スルモノデアルカラ理解シテ居ラナカッタと思ハレル。要スルしゆみつとハかんと哲學ノ重要ヲ認メントセル最初ノ獨逸社會主義者ノ一人デアツタガ、併シ其ノ重要ノ眞義ヲマダヨク理解シテ居ラナカッタノデアル。

(4) べづあーと、べるんじゅたいん (Eduard Bernstein)

獨逸まゝゝるくす主義者ノかんと化運動ノ生起發達ヲ研究スルニ當テ、最トモ興味アルハべるんじゅたいん、ぐんたい、ゲおるとまん等ノ人々デアルガ、先ヅべるんしたんニ就テ考究スル。べるんじゅたいん自身ノ云フ處ニ依レバ、彼ガ始メテかんと哲學ニ興味ヲ感ジタルハあるばいど、らんげノ研究ニヨリテデアル。又夫レヨリこゝにらんナゾノ影響ニヨリテ、漸次ニかんと化シタルノデアル。而シテ「のいえつあいと」第十六卷ニ於テ公ニセル「社會主義ニ於ケル現實的要素ト觀念的要素」ニ於テ、始メテ「かんとニ歸レ」ハ社會主義ノ理論ニ於テモ或程度マデ必要ナル」コトヲ公言シタルノデアル、右ノ論文ニ於テべるんじゅたいんハ先ヅかんとハ超越的唯心論者デアルガ、併シ實際ニ於テ彼ハ所謂自然科學的唯物論ノ多數ノ唱道者ノ考フルヨリハ、遙カニ現實主義者デアツタノデ、彼ハ吾人ノ認識能力ノ彼岸ニ存在スル物自體ノ觀念ヲ高上シタルノデハナクシテ、却テ之ヲ制限シタルノデアルト論ジ、夫ヨリ多クノ實例ヲアゲテ、新唯物論者ハ認識論的ニハ近世自然

研究ノ大家ノ最トモ多クト同ジク、かんとノ地盤ノ上ニ立テルモノナルヲ論證シテ居ル。而シテべるんじゅたいんノ考フル處ニヨレバ社會主義ハ學說トシテハ始メ純理想主義的ノモノデアツタコトハ何人モ疑フコトハ出來ナイ。又唯物史觀說スラモ矢張り社會主義的運動ノ衝動力トシテ、

觀念の諸勢力ヲ利用シテ居ル。まゝるくす社會主義ノ前定スル利益心ハ本來社會的及ビ倫理的要素ヲ具有シ、而シテ夫レガ爲メニ單ニ知力的ナルモノニ非ラズシテ又倫理的ナルモノデアリ、隨フテ本來理想の性質ヲ有スルモノデアアル。同ジク國家、社會、經濟及歴史等ニ關スルぶるれたりあと思想モ必然的ニ理想主義的色彩ヲ帶ビテ居ルノデアアル。

べるんしゅたいんハ其後「社會主義運動ニ於ケル現實主義的及ビ理想主義的要素ヲ同様ニ強メル」爲メニ、千八百九十九年著名ナル彼ノ著作「社會主義ノ前定ト社會民主主義ノ任務」ヲ公ニシタ。本書ハ獨逸社會民主黨内ニ於ケル修正派ノ發達ニ重大ナル影響ヲ及ボシタルモノデアアル。而シテ大ニ理想主義的要素ヲ重ンジテ、唯物主義ニ偏スル弊ヲ矯正セント企ダテ、又其ノ企ダテニ於テ成功シタモノデアアルガ、併シ特ニ社會主義ノかんと化ノ方面ニ於テハ、サキニ彼ノ公ニセル諸論文ノ上カラ希望シ得ルホド研究ヲ進メテ居ラナイ。且ツ本書ニヨリテ彼ハ社會主義化セル新かんと派ノ哲學者、殊ニかんとトまゝるくすトノ調和ヲ圖ラント企ツル人々ホド、社會主義ノ改造ニ於ケルかんと哲學ノ意義ヲ深く理解シテ居ラナイコトガ悟ラレルノデアアル。茲ニハ本書ニ於テ彼ガ特ニかんとト社會主義トノ關係ニ就テ簡單ニ述ベテ居ルコトヲ紹介シテ置ク。

「夫レ高上シツツアル階級ハ健全ナル道德ヲ有シ、決シテ道德的ニ墮落シテハナラス。而シテ若シ其ノ近キ諸目的ヲ熱心ニ追求スルナラバ、理想的ナル究極目的ヲ設定シテ居ルヤ否ヤハ第二次のナ重要シカ有シナイ。重要ナルコトハ、夫等ノ近キ諸目的ガ經濟及ビ社會生活ノ高等ナル程度ヲ表現スル一定ノ原理ニヨリテ鼓吹サレテ居ルコト、又文明ノ進化ニ於テ道德及ビ法律の權利ノ高尚ナル見解ヲ意味スル社會的思想ノ顯現デアアルコトデアアル。……余ハ右ノ如クニ考ヘテ、今

ヤ勞働者階級運動ニ於テ勢力ヲ振ハントシ、而シテヘーげるノ辨證法ニ安全ナル逃場ヲ求メントスル不眞面目ナ、思慮ナキ模倣的ナ傾向ニ反抗スル爲メニ、嘗テ純粹理性ノ批判者、けーにひすべるひノ大哲學者ノ精神ニ訴ヘタ。余ノ此クナセシハツマリ社會民主主義ハ今ヤかんどノ如キ思想家ヲ要求スルコトヲ確信シタカラデアル。カクノ如キ思想家ガ現ハレラ傳來ノ意見ヲ判斷シ、深ク鋭ク之ヲ批判的ニ吟味シ、其ノ見掛上ノ唯物主義ハ何レノ點ニ於テ最高ノ、故ニ又最トモ容易ニ人々ヲ惑ハス理想主義デアルカラ指摘シ、而シテ理想ヲ輕蔑シ、物質的要素ヲ進化ノ全能力ト見ルマデモ擴大シテ考ヘルコトハ、斯クナス人々ノ實際ノ行動ニヨリテ常ニ裏切ラレタル、又將來モソウデアラウト思ハルル自欺自騙デアルコトヲ警告スルコトガ甚ダ肝要デアル。……若シ余ノ書ク事ガ誤解サレル恐レナカリシナラバ、余ハ「かんどニ歸レ」ヲ「らんげニ歸レ」ニ換ヘタカツタノデアル。但シカノかんどニ歸レト叫ブ哲學者及ビ研究者ハけーにひすべるひノ哲學者ノ書キシ事ニ文字通りニ歸ヘラント苦心スルノデナク、只彼ノ批判主義ノ根本的原理ニ歸ルコトダケヲ狙フノデアルト同ジク、社會民主主義モふりーどりつひ、あるばーと、らんげノ總テノ社會的政治的見解ニ歸ラネバナラスト云フノデハナイ。余ガ人々ノ注意ヲ促サントスルコトハツマリらんげニ於テ、カノ勞働者階級ノ解放ノ爲メニ奮闘スル實直ニシテ大膽ナル戰士ノ性質ト、喜ンデ誤謬ヲ承認シ新シキ真理ヲ受容スル處ノ僻見ニ捉ハレナイ廣大ナル科學的精神トガ著シク相結合シテ居ル」。

以上述ベシべるんしゆたいん自身ノ言葉ニヨリテ、吾人ハ彼ノかんど化ノ眞義ヲ明ラカニ理解スルコトガ出來ルト思フ。要スルニ彼ハかんど哲學ノ根本思想ヲ擷取シテ社會主義ヲ改造セント

スルヨリハ、寧ロかんとノ批判的ナ考ヘ方ニ倣フテ、獨斷的傳襲的トナリツツアルまゝるくす主義ノ眞理ト謬見トヲ判別シ、又反對ノ思想ノ中ニ含メル眞理ヲモヨク辨別シテ之ヲ攝取セントスルノデアル。此クテ彼ハかんとヘ歸ルヨリハ寧ロらんげニ歸ラントスルノデアル。但シらんげハ新かんと哲學ノ先驅者ノ一人デハアルガ、併シマダ嚴密ニ云フ新かんと派ノ哲學者トハ見做シ得ラレナイ人デアル。サレバかんとトまゝるくすトヲ内面的ニ結合セント努力シツツアル新かんと派ノ哲學者ふおるれーんだーノ如キハべるんしゅたいんノ態度ノ不徹底ナルヲ非難シテ居ル。而シテまゝるくす主義者ノ中デかんと化ノ方針ニ於テ先ヅべるんしゅたいんヨリモ更ニ一步進ンダノハぐんたーデアルト思フ。

(5) さち、ぐんたー (Sadi Gunter)

さち、ぐんたートハ或人ノ變名デアルト云フガ、其ノ「のいえ、つあいと」ニ於テ發表セル論文ノ年月順ヲ追フテ考ヘルト、彼ハ先ヅ唯物史觀ト實際的理想主義トノ調和ヲ圖ラントスル計畫カラ出發シテ居ル。其ノ最初ノ論文ハ「唯物史觀ト實際的理想主義」ト題サレテ居ツテ、其ノ中ニハ彼ハかんと及ビ新かんと派ノこーへん、なゝとるぶ、しゅたむらゝ等ガ只「概念解剖」ノミニ依頼スルヲ非難シテ居ル。而モ全然之ヲ排斥セントスルノデハナク、ヘーげる哲學ヲ以テ之ヲ矯正シ、兩者ノ調和ヲ圖ラント企ダテ、而シテ唯物史觀ヲ「事實的經驗ニ關シテハ、かんと、ヘーげる哲學ノ或度ノ總合」ト觀念セントシテ居ル。次ニ第二ノ論文「べるんしゅたいんと科學」ニ於テハ、彼ノ見解ハ一層多ク新かんと派ノ影響ヲ受ケテ居ル。其ノ中ニ於テモ彼ハかんとノ「可想の世界」ノ觀念ヤ、自由ノ觀念ハアマリニ神秘的デアルトシテ非難シテ居リ、又別ニ新かんと

派ノ哲學ニ依頼スルトハ明言シテ居ラナイガ、而モ實際ニ於テコーレン、なゝとるぶ、しゅたむらゝ、しゅたうちんがゝ等ノ方法ニヨリテ大ニ影響サレテ居ルコトヲ示シテ居ル。彼ハ方法ノ「統一性ト完全性」トヲ大ニ高調シテ、科學ハ思惟ニ於ケル統一即チ「吾人ヲ惱マス思想矛盾」ヲ除去スルコトヲ目的トシ、倫理學ハ行爲ニ於ケル矛盾ヲ除去スルコト、又社會政策學ハ社會の制度的制度ニ於ケル統一化ノ努力ノ表現ニ外ナラス」ト論斷シテ居ル。又夫レト同時ニまゝるく社會主義ハ倫理的統一化ノ努力ノ法則性ヲ觀過シテ居ルカラ、此ノ大缺點ヲ補フコトガ其ノ最大急務デアルト論ジテ居ル。

ぐんたゝハ更ニ其ノ後らぶりおらノ著書ヲ批評セル論文ニ於テ、歴史ト倫理トノ關係ヲ論ズルニ當テ、大ニかんと化ノ態度ヲ發揮シテ居ル。此ノ論文ニ於テハ以前ノ論文ニ於テ見ルガ如キ箇箇ノ點ニ付テかんとノ思想ヲ非難スル傾向サヘモ全ク消失シテ居ル。之ニ反シテ彼ハ今ヤかんとノ人格自己目的ノ思想ハ社會主義の倫理ノ原理デアアルコトヲ明ラカニ承認シ、自由主義ノ途ガ密ニ歴史のニ止マラズ、又倫理的ニモ社會主義ニ吾人ヲ導クト同ジク、かんとノ徹底的ナル自由主義倫理ノ途ハ今ヤ發展シツツアル科學的ナル社會主義倫理ニ吾人ヲ導クモノデアルト考ヘテ居ル。尙ホ彼ノ論ズル處ニヨレバ、若シ社會主義ガ見掛上ノ自由ノ下デ有資産者ヲシテ勞働手段トシテ無資産者ヲ使役セシムル資本主義ニ代リテ、勞働共同團體ニ於テ、即チ各箇人ガ自由ナル人格トシテ同時ニ他人ノ爲メニ勤メ、同一ノ共同的要求ニヨリテ支配サレル社會ニ於テ、勢力ヲ振ハントスルモノナラバ、是レ實ニ既ニかんとノ斷言の命令ノ中ニ含マルル要求ヲ明白ニ表現セルモ

ノニ外ナラス。但シかんとノ時代ニ於テハ假令其ノ要求ヲ論理的ニ發展サセテモ之ヲ實現スル物質的條件ハ具ハツテ居ラナカツタ。然ルニ今日ニ於テハ之レガ實現ヲ圖ル歴史的可能ガ與ヘラレテ來タ。而モ妥當性ノ方面カラ見レハ其ノ要求ハ歴史的發展ニヨリテ論證サレルモノデナク、只理性的秩序ノ法則性、自由ナル人間ノ目的ノ合致ノ要求ニヨリテノミ論證サレルモノデアル。サレバ生成ノ法則ノ知識ハ論理的及ビ倫理的結合ノ考察、即チ價值判斷法則ト結合サレチハナラス。而シテ此ノ結合ノ一方面即チ「必然性ノ論理的洞察」ハえんげるすニヨリテ既ニ發展サレタ、併シ他ノ方面ハ彼ニヨリテ只僅カニ豫感サレタダケデアル。而モ形式的倫理ハ形式的論理ト同様ニ必要デアル。サレバ今日ノ社會主義者ハかんと「形式的分析的」ナル科學的倫理學ヲ大ニ研究セキバナラス。科學的進步ニ役立ツモノハ其ノ出所ノ如何ヲ問ハズ歡迎サル可キモノデアル。社會主義ハ只總方面的デアル場合、即チ科學的方法ニヨリテ歴史的二論證サレルト同ジク、論理的及ビ倫理的ニモ論證サレル場合ニ於テノミ正當デアル。サレバ「社會主義ハ今日マデノ歴史的過程ノ結果デアルト同ジク思想傾向デアリ又將來ヲ新ラタニ形成セントスル意志デアル可キモノデアル」。

以上述べシ處ニヨリテぐんたゝのかんと化ノ程度ハ如何程マデ進ンダカラ推察スルコトガ出來ルト思フガ、社會主義化セル新かんと派ノ哲學者ノ一人ハ彼ヲ評シテ、實ニ下ノ如クニ云フテ居ル。「新かんと派ノ哲學者ハガカルまゝるくす主義者ト喜ンデ提携スルコトガ出來ル。彼ハ只山ノアチラノ麓カラ同ジ高根ニ攀チ登ラントシテ居ルダケデアル」。併シグおるとまんニ至リテハ彼ヨリモ更ニ一層明白ニかんと哲學ヲ受ケ入レ、而シテ意識的ニかんとトまゝるくすトヲ結合シ調和セントスル努力ガ現ハレテ居ルト思ハレル。(未完)